

# BDF 走行試験開始

## 2ヵ月間 資源再利用をPR

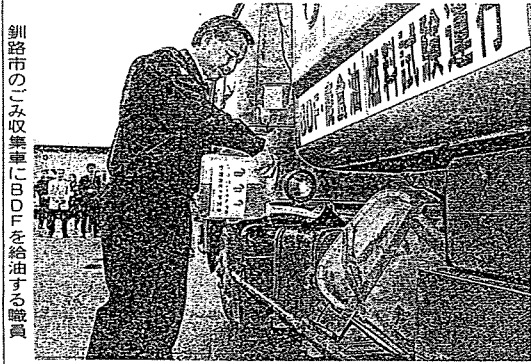
釧路

使用済み食用油から回収量などの調査を目的に今年四月から市内の公共施設や商業施設に回収ボックスを設置。現在、阿寒、音別地区を含め計二十一カ所があり、月平均千円で回収量を増やす。資源再利用への意識を高めて廃食用油の回収量を増やすため、市のこみ収集車一台で二ヵ月間の走行試験を始めた。

同研究会は試験期間中、資源ごみを回収する市の公用車一台にBDFを無償提供する。この日は約百リットルが給油され、車体側面には試験

同研究会は「自らが提供した食用油で収集車が実際に走行しているところを市民に実感してもらい、再利用への取り組みの輪を徐々に広げていきたい」と話している。

事務局長は「自らが提供した食用油で収集車が実際に走行しているところを市民に実感してもらい、再利用への取り組みの輪を徐々に広げていきたい」と話している。



釧路市のこみ収集車にBDFを給油する職員

# 廃棄物収集車にバイオ燃料

## 釧路市の 2ヵ月間実証実験



一般家庭から排出される食用油をバイオディーゼル燃料に精製し、活用の実証研究を行っている釧路BDF研究会は1日から、釧路市環境部の廃棄物収集車に燃料を提供開始している。2ヵ月にわたって燃費などを調査する一方、市内全域を走る収集車に給油することで同燃料のPR効果

同研究会は4月から市内に廃食用油の回収ボックスを設置。当初4カ所スタートしたがスーパーや老人施設などにも少しずつ広がり、現在は21カ所で回収している。試算では年間200トンの排出が見込まれているが、回収量は増加しているといっている。また、実証的な調査はあつちみられている。

今同燃料が提供されるのは市環境事業課が所有する廃棄物収集車(8000cc)の16台のうち1台で、1日の走行距離は80キロ。この日は午前9時の出発に合わせて、同市古川町の環境事業課庁舎前でセレモニーが行われ、山田範充環境美化推進主幹が「

の燃料を活用することで市内に回収が高まれば」とあいさつした後、環境部の高橋悟次長が同燃料を給油した。車両には「BDF廃食用油燃料試験運行」と表示されている。タンクには100リットルまで入れられるため、同課は5日間使用できるはず。燃費の調査も行いたいとしている。また、同研究会の事務局を努める市産業推進室は「道の補助を受けて、今後も回収ボックスを複数カ所に設置する予定」と話している。(平山公彦)



の燃料を活用することで市内に回収が高まれば」とあいさつした後、環境部の高橋悟次長が同燃料を給油した。車両には「BDF廃食用油燃料試験運行」と表示されている。タンクには100リットルまで入れられるため、同課は5日間使用できるはず。燃費の調査も行いたいとしている。また、同研究会の事務局を努める市産業推進室は「道の補助を受けて、今後も回収ボックスを複数カ所に設置する予定」と話している。(平山公彦)